

**孔子の言葉の数々、「論語」。
混乱の時代から抜け出す手がかりが、
そこにある。**

はるか二千五百年前。春秋時代の中国に生を受けた、その人の名は孔子。
戦乱の世に民に希望をもたらした彼の言葉の数々を編纂し、後世に伝える言行録「論語」は、
人々の心の礎となり、長く日本でも語り継がれてきた。
混乱を極める、真のリーダー不在の現代、その思想の重要性は増し、
アジアのみならず世界中で再評価が高まっている。
しかし、我々は孔子本人のことを何も知らなかった。
本作は、挫折を繰り返しながらも、時代の流れに抗しようとした“人間・孔子”を初めて描く、最良の孔子
伝。
現代の論語入門書である。

**四十にして惑わず、五十にして天命を知る・・・、
七十にして、心の欲するところに従って、矩を踰えず。
生涯を賭けて、乱世を正そうとした男の物語。**

紀元前六世紀。
周王朝には没落が迫り、諸侯国が覇権争いを繰り広げていた。
魯国の没落貴族の家庭に生まれ育った孔子は、乱世を憂い魯国に仕官した。

己の欲せざるところ、人に施すなかれ。

民のために因習の撤廃を進言し、自らが作り上げた政治思想を掲げた彼は、
魯国に尊厳と希望をもたらしていった。

義を見て為（せ）ざるは、勇なきなり。

しかし、時代はまだ追いついていなかった。
政治的陰謀に巻き込まれ、様々な障壁、策略に阻まれた孔子は、
弟子たちを率いて、諸国を巡る旅に出た。

朝（あした）に道を聞かば、夕べに死すとも可なり。

それは十四年にも及ぶ、生命を賭けた長い道のりの始まりだった。

**中国語圏映画界が総力を結集！
スーパースター、チョウ・ユンファ新たな代表作！**

中国人俳優にとっては最も畏れ多い挑戦ともいえる孔子役に挑んだのは、チョウ・ユンファ。
時代時代に忘れがたい代表作を残してきた彼が、香港、ハリウッドでの活躍を経て、遂に中国本土映画で、
最高の演技を見せた。孔子の前に現われる絶世の美女・南子には、『ウィンター・ソング』などで中国四大
美人女優の一人に数えられるジョウ・シュン。監督はチャン・イーモウ、チェン・カイコーらと共に、中国
ニューウェイブ世代に属する女性監督フー・メイ。『山の郵便配達』『レッドクリフ』『グリーン・デステ
イニー』等を手がけた、中国語圏映画界を支える最高のスタッフが、結集した。主題歌はフエイ・ウォン。
孔子の教えを現代に伝える、意義深い作品だったからこそ、参加することを決めたという。

ツイート 2

@eigakoushiさんをフォロー